

気管挿管下での離床 有害事象発生率は 6.6 %



当会代表の曷川らによる研究が、Journal of Clinical Medicine 誌 (IF=4.24) に公表されました。

人工呼吸器患者に対する離床の安全性は、海外の研究で証明されてきましたが、気管挿管下での積極的な離床に局限したデータは、ほとんど報告されていません。この研究¹⁾では、気管挿管された状態で、端座位・立位・歩行を行った198回の離床を分析しており、循環動態の変動などの有害事象は6.6%に発生したものの、死亡などの重大なアクシデントは1件もなかったことを報告しています。

これまでの研究は、ベッド上でのエクササイズや、挿管されていない患者の離床を含んだものであり、挿管患者、しかも端座位以上という、最もリスクが高いと思われる離床時に、発生率が上がるのかは、不明で

した。この研究結果から、気管挿管、アクティブな離床時には、4%ほど、有害事象の発生率が上がることがわかりました(文献2と比較)。また、有害事象が最も多く発生した離床レベルは立位で、その発生確率は5回に1回の割合と、非常に高いものであることがわかりました。

離床は早いほど良い、と思われがちですが、ICUに入室して早い段階での離床は、バイタルサインの変化が大きいことから、特に立位で、十分注意して行うべきであると考えられます。この文献の図表では、各離床レベルにおける有害事象の内容を、詳細に見ることができます。是非、ご覧下さい。

文献

- 1) Katsukawa H et al, Risk Factors of Patient-Related Safety Events during Active Mobilization for Intubated Patients in Intensive Care Units – A Multi-Center Retrospective Observational Study: J Clinical Med 10, 2021
- 2) Nydahl P et al, Safety of patient mobilization and rehabilitation in the Intensive Care Unit. Systematic Review with Meta-Analysis. Ann. Am. Thorac. Soc. 2017, 14, 766-777.

離床インストラクター・アドバイザー認定試験 2022年も1月開催 願書受付中

2021年1月に、当会史上初となるオンラインでの離床インストラクター・アドバイザー・プレアドバイザー認定試験が開催されました。Zoomで試験監督と接続しながら、Web上の回答フォームに入力しながら回答する形式です。初めての試みで、受験者も緊張した様子でしたが、大きなトラブルがなくスムーズに全ての受験者が回答することができていました。

2022年もオンラインでの認定試験を開催します。インターネットに不慣れな方もリハーサルを行い、万全のサポートで実施しますので、安心して出願してみてください。



詳しい出願方法は、当会ホームページのバナーよりご覧ください。

出願期間：2021年12月31日(金)消印有効